

柴田町の地域学校協働活動

1 今年度の事業への取組について

柴田町教育委員会では、平成23年度から実施してきた「柴田町協働教育プラットフォーム事業」を引き継ぎ、家庭・地域・学校の協働による教育活動を通じた家庭・地域の教育力の向上や学校教育の充実、子供たちの健全育成や地域住民の自己実現と社会参画の推進を目的とした「柴田町協働教育推進事業（地域学校協働活動推進事業）」を実施している。

2 地域学校協働本部について

平成26年度から設置している柴田町協働教育推進委員会を、平成29年度から地域学校協働本部と位置付けし、委嘱された推進委員が年2回、事業の方向性や現状、課題等を共有している。また、平成26年度からコーディネーターを配置。平成30年度からは経験豊かな地域コーディネーターを統括コーディネーターに委嘱し、令和元年度からは地域学校協働活動推進員として、統括コーディネーターと地域コーディネーターによるコーディネート体制の組織化を実現。学校並びにボランティアがともに目的を共有できるよう工夫し、両者の負担を軽減した結果、地域学習や地域貢献活動等、子供たちが地域の「もの・こと」と関わる活動まで広がりを見せている。

3 事業紹介

(1) 家庭教育支援活動

事業名	内容	備考
子育て・親育ち講座	町内各小学校の入学説明会・一日入学の待ち時間を活用し、家庭における基本的なしつけの重要性について、宮城県版親の学びのプログラム「親のみちしるべ」を活用し、保護者が学ぶ機会を提供。 ◆メインファシリテーター ・県家庭教育支援チーム 協議委員 佐藤 徳美 氏 ・県家庭教育支援チーム 地域実践リーダー 安部 信次 氏	◆サブファシリテーター および子供の見守り 柴田町子育てサポーター「すきっぷ」 ◆会場 町内6小学校（予定）
子育て・親育ち 思春期講座	中学校入学説明会を活用し、保護者に子供の中学校入学前の心構えとして、思春期の特徴や親としての関わり方を学ぶ機会を提供。 ◆作成・指導 県家庭教育支援チーム協議委員 中保 良子 氏	◆講師 ・生涯学習課職員 ・柴田町子育てサポーター「すきっぷ」 ◆会場 町内4小中学校（予定）
親のみちしるべ 出前講座	宮城県版親の学びのプログラム「親のみちしるべ」を活用し、子育て中の親同士等が交流を図りながら親自身の気付きや子育てについて学び合うための出前講座を開催。	町内で活動する子育てサークルより2件申請

男性向け家庭教育講座	<p>父子のふれあいや父親の積極的な育児参加を促すとともに、父親同士の交流を深めながら子育てについて楽しく学ぶことをテーマとした講座を開催。</p> <p>◆テーマ:プログラミング体験と楽器演奏体験</p> <p>◆講師:あずなびあ(視聴覚教材センター)職員、えずこウィンド♪アンサンブル</p>	小学生とその保護者 10組約20名参加(予定)
子育てサポーター研修会	<p>町内で活動する子育てサポーター「すきっぷ」に対し、宮城県版親の学びのプログラム「親のみちしるべ」の基本的なファシリテートの仕方について研修会を開催。</p> <p>◆講師 ・県家庭教育支援チーム 協議委員 佐藤 徳美 氏</p>	子育てサポーター6名参加
「子育て支援ネットワーク協議会」を通じた連携と情報交換の強化	<p>子育て支援に関する事業の企画・立案や柴田町子育てサポーターの養成・派遣、関係機関・施設間の連絡・連携体制の強化を図ることを目的に年4回開催。</p> <p>◆事務局:子育て支援センター</p>	構成員13名(子ども家庭課、健康推進課、生涯学習課、幼稚園、保育所、児童館、社会福祉協議会、子育てサポーター、子育て支援センター(事務局))



【子育てサポーター研修会】



【親のみちしるべ出前講座】

(2) 地域活動

事業名	内容	備考
柴田町子どもフェスティバルの開催	子ども会育成会連絡協議会、柴田町教育委員会の共催事業。子供が一堂に会し、地区子ども会等が設けた遊びのコーナーで様々な体験をする。異年齢集団や異世代間、親子の交流の場を提供する。	【来場者188名】
ジュニア・リーダーの育成	子ども会活動の活性化、次世代のリーダーを育成。初級研修会・町技術研修会の実施。中級・上級研修会への参加。子ども会活動、子どもフェスティバルへの派遣。姉妹・歴史友好都市シニアリーダー研修・交流会の実施。定例会・自主企画イベントの開催。	<ul style="list-style-type: none"> ・在籍数:高校生4名、中学生5名 計9名 ・初級研修会 参加6名 ・町自主企画 第1回 参加5名 第2回 3月開催予定



【ジュニア・リーダー初級研修会】



【子どもフェスティバル】



【ジュニア・リーダー自主企画】

(3) 学校支援活動

事業名	内容	備考
しばたっ子応援団(学校支援ボランティア)の派遣	学校の支援要請に応じて「しばたっ子応援団(学校支援ボランティア)」を派遣する。 この活動は、地域と学校が連携・協働して、幅広い地域住民の参画により、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域の人と人とのつながりをつくることを目的としている。	・登録者数(1月現在) 個人48名、任意団体24団体(232名)、事業所等55事業所 計280名 (延べ人数)
キャリア教育支援 ①職場体験学習受入事業所等と学校との連絡調整 ②キャリアセミナー(職業人の話を聞く会)の開催	町内中学校が推進する「志教育」、「進路指導・キャリア教育」等の教育活動を教育委員会や地域が支援する体制を整備し、学校教育の充実を図る。 ①町内3中学校の職場体験学習の実施にあたり、学校支援活動事務局(生涯学習課)が窓口となり、町内の事業所等に職場体験学習の受入依頼、連絡調整を行う。 ②学校、教育委員会との協働により、町内外の様々な職業人との車座によるふれあいや講話を通し、進路に関する意識を高め、今の学校生活が将来の生活に結びついていることを確認する機会をつくる。	①職場体験受入事業所数 54事業所 ②キャリアセミナー 参加予定講師数 ・船岡中1学年:22名 ・槻木中1学年:15名 ・船迫中1学年:15名
協働教育推進委員会(地域学校協働本部)の開催	平成26年4月より設置。年2回開催。地域学校協働本部として、協働による教育活動を通じ家庭・地域の教育力の向上を図るとともに、学校教育の充実や子供たちの健全育成、住民の生きがいや、やりがいづくりを推進する。また、委員相互の連携を深めながら情報を共有し、より良い地域学校協働活動推進のために資質の向上を図る。	第1回 6月25日開催 第2回 2月12日予定 校長会担当校長、町内小中学校地域連携担当教諭、教育委員会各課・生涯学習施設職員、しばたっ子応援団員、生涯学習課職員(事務局)の計26名で構成

しばたっ子応援団(学校支援ボランティア)研修会	地域と学校が連携・協働した教育活動の充実に向け、学校のニーズに合った活動のボランティアの役割を再確認する。また、学校とボランティアの交流・情報交換を通じ、協働することの有効性の共通理解を高め、地域全体で子供たちの健全育成を図る。	8月1日開催 参加37名：協働教育推進委員（地域学校協働本部員）、しばたっ子応援団員、地域学校協働活動に関心のある教職員等
-------------------------	--	--



【しばたっ子応援団の派遣】



【職場体験学習】



【しばたっ子応援団研修会】

4 成果と課題

(1) 成果

①家庭教育支援活動

- ・今年度も全校で「子育て・親育ち講座」及び「子育て・親育ち思春期講座」を開催予定である。「子育て・親育ち講座」では、宮城県版親の学びのプログラム「親のみちしるべ」を活用し、子供が基本的な生活習慣を身につけることの大切さを保護者が理解するとともに、グループワークを通じて、新しい環境で生活する子供への期待や不安を共有する機会を設けることができた。
- ・町内の幼保児小中、子育て支援センター、子ども家庭課、健康推進課、社会福祉協議会との連携、情報交換を密にすることにより、町として効果的な家庭教育支援体制を構築することができた。

②地域活動

- ・ジュニア・リーダーの派遣依頼を多くいただき、少しずつ活躍の場が増えた。また、研修会や活動等を通じ、ジュニア・リーダーの資質向上を図ることができた。
- ・今年度も教育委員会と子ども会育成会が協力し、柴田町子どもフェスティバルを開催した。参加した子供たちは、様々な遊びを通じて人と関わることを学び、地域の垣根を越えた子供同士の交流を図ることができた。

③学校支援活動

- ・学校からコーディネーターへの相談がきっかけとなり学校支援活動につながるが増えてきた。また、地域学校協働活動を実施するにあたり、目の前の活動に取り組むだけでなく、活動のねらいを重視した、地域と学校が連携・協働する姿が多く見られた。さらに、他の学校で実施している活動を自分の学校でも取り入れるといった協働教育推進委員会で横のつながりをつくってきた成果が見られ、地域学校協働活動の推進体制の強化が形となってきていると感じた。

(2) 課題

関わっていただいているボランティアの高齢化による担い手不足などの課題はあるが、ボランティア同士の横のつながりから、新しい協力者も増えている。事業所のしばたっ子応援団員を増やすことで、今後も継続して地域学校協働活動を実施し、児童・生徒に切れ目なく、安定した学習の機会を提供することができるように、関係機関と協議・連携し、事業展開を図る。

柴田町 柴田町立槻木小学校(総合的な学習の時間)「米作りの学習(米の販売)」

○市町名 柴田町

○学校名 柴田町立槻木小学校

○期 日 令和6年11月26日(火)

○内 容

総合的な学習の時間(第5学年)

「お米の販売×自分の得意なこと・好きなこと
=米農家の魅力を発信しよう」

- ・田植え・稲刈り体験、米作りに関する調べ学習や米農家のお話を通し、米農家が抱えている課題を知り、課題解決に向け自分たちにできることを実践する。
- ・米の販売活動を通し米農家の魅力を発信するだけでなく、販売に向けた様々な活動の中で、仲間の良いところを認め合い、自分の好きなことや得意なことにも気付く。

○活動支援者

柴田町役場農政課 主事 佐藤 壱哉氏

しばたっ子応援団

下町・東婦人会:佐藤 弘子氏(代表) 星 幸美氏
氏家 秀子氏 佐藤 幸子氏 渡邊 みち子氏
間中 京子氏 平間 悦子氏

ハナミズキ: 相馬 敏子氏 日下 しづ子氏

上川名地区活性化推進組合:加藤 嘉昭氏(代表)

加藤 一郎氏 平間 榮雄氏 平間 幸弘氏
大沼 保浩氏 加藤 文夫氏 佐々木 利彦氏
大沼 あけみ氏 小畑 満男氏 高橋 弘康氏

JA 全農 A コープ槻木店:菊地 和之氏(店長)

(株)柴田造園:平間 誠貴氏(代表取締役)

(個人) 高橋 俊子氏



○児童の声

- ・お客様が2,200円もお金を出してくれて、自分たちで作ったお米を買ってくれたことが嬉しかったです。
- ・チラシを作ることもよりも、お米を販売することよりも、田植えや稲刈りなど、お米の栽培をすることがとても楽しかったです。僕の夢は、歌手になることと、米作りになりました。



- ・お米の販売は、とても緊張しましたが、お客様に声が届くように頑張りました。看板作りもしましたが、作っているときは看板の役割がよく分かりませんでした。実際にお米の販売をしてみて、看板も大切なんだなあと感じました。



- ・今回、看板やチラシ作りなど、自分たちで考えたり作ったりしました。自分たちの力で、お米の販売ができたのは、すごく良かったと思います。
- ・お金の管理係で、お客様から預かったお金を管理するのは難しかったけど、ボランティアさんのおかげで上手くできました。よかったです。

- ・回覧用チラシを作りましたが、ボランティアさんに教えていただき、いろいろなことを知ることができました。お米の販売では、思っていた以上に、お客さまとの会話が難しかったですが、最後まで頑張りました。

○活動支援者から

- ・米の袋詰めと販売活動のお手伝いをしました。袋詰め活動では、米を決まった重さに量り、袋に詰める作業をしましたが、子供たちは、慣れない手つきながらも集中して活動に取り組んでいました。販売活動は、とても緊張したようですが、間違いなくできて嬉しそうにしていました。(下町・東婦人会：星 幸美氏)



- ・打合せで、「温かい見守りを」というお話だったので、子供たち中心の活動になるよう心がけ、子供たちの良いところを具体的に褒めてあげるように意識して活動しました。子供たちは、本当によく頑張っていました。

(下町・東婦人会：佐藤 弘子氏)

- ・米の価格設定や回覧用チラシ作成のサポートをさせていただきました。すべて子供たちの力で準備をしてきたからこそ、今日のお米販売の子供たちの笑顔なのだと思います。とても良い顔をしていました。

(柴田町役場農政課 主事 佐藤 竜哉氏)

- ・「出店させてほしい」と子供たちより依頼があり、子供たちと話をし、出店許可証を出させていただきました。初めての試みということでしたが、子供たちはハキハキと頑張っていました。どんな活動が子供たちにとって良い学習になるのか、今後も一緒に考えていければと思います。

(JA全農Aコープ槻木店 店長 菊地 和之氏)

- ・ここまで、たくさんの活動を積み重ねていくとは思いませんでした。先生方の取り組む姿勢が素晴らしいと思います。子供たちは田植え活動から一生懸命で、最後まで頑張ってくれたこと、米作り農家として大変嬉しく思います。

(上川名地区活性化推進組合 加藤 一郎氏)



○教職員の声

- ・事前準備含め、当日も朝からたくさんのお手伝いをいただき、子供たちも私も安心して活動することができました。準備を重ね、米販売が成功し、子供たちは大きな達成感を得ることができたと思います。ありがとうございました。
- ・打ち合わせ時、学習の展望について、複数提案したことを具体案として資料を作っていたいただいたこと、渉外関係の調整をいただいたこと、とてもありがたかったです。学校職員だけの力では、諦めてしまう学習活動も、生涯学習課の皆さんのおかげでやってみようと思うことができ実践することができました。ボランティアさんも含め、子供のためにこのメンバーと一緒に活動ができて光栄に思っています。
- ・私たち以上に生涯学習課の皆さんの熱い思いを感じました。正直、こんなことができればいいかなとお願いしましたが、子供たちの成長という点にも力を入れて計画を立てていただき、感謝でいっぱいです。子供たちからは、「多くの人の手がかかっていることが分かった」という感想もあり、実体験を通した深い学びにつながったことを感じました。ありがとうございました。

柴田町立船岡小学校

〒989-1604 柴田郡柴田町船岡1丁目2番60号
Tel 0224-55-1064
Fax 0224-55-5185
児童数 501名

学校教育目標
児童の頑張りを応援する合言葉 **いい知恵 (知) いい汗 (体) いい笑顔 (徳)**

特色ある活動教育

- ～創造活動～
部活動がボランティア
授業を中心として、ボランティアによる活動による活動の推進により、児童の自主性を伸ばすことに努めています。
- ～志趣教育～
スポーツ体験
体育科の授業活動による授業で、児童が自主的に活動し、自己表現の場を確保しています。
- ～福祉学習～
車椅子乗降体験
児童が「たのびのこども」から自らの経験をもとに、福祉学習の場を確保し、福祉学習の場を確保しています。
- ～安全教育～
交通安全指導
児童が下校の時に、交通安全指導を行い、日頃の生活も安全に過ごせるように努めています。

榎 柴田町立榎木小学校

今年5年に開校した小学校は150周年を迎えました
児童数 437名

〒989-1758 宮城県柴田郡柴田町榎木2-14-1
TEL 0224-56-1029 FAX 0224-56-4617

地域と連携した教育活動(読み聞かせ、総合的な学習の時間、ゲストティーチャー)

- 読み聞かせ
読書ボランティアの方の協力により、様々な読み聞かせを行っています。児童の読書への関心を高め、豊かな心を育てています。
- 総合的な学習の時間
農家のみなさんの力を借り、田植えや稲刈りなどの体験的な活動を行い、地域や自然を愛する心を持っていきます。
- ゲストティーチャー
「しばたっ子応援団」からゲストティーチャーを招いて学習を行い、自分たちの町の未来について考え、自分たちにてまることが行っています。

柴田町立柴田小学校

児童数 53名
〒984-1761 柴田郡柴田町大字基原字船内30
TEL 0224(56)1130 FAX 0224(56)1918

伝統芸能「大黒舞」
田んぼの学習
史跡巡り
袖字学習

地域の伝統芸能「大黒舞」を地域の若々から継承して引き継いでいます。

地域の方に田植えや稲刈りを教わり、春や収穫について教えています。 畑の方に教えていただいたいます。 畑のそばに「南无の種子」のお話を聞き、袖字料理を作ります。

柴田町立船迫小学校

〒989-1622 宮城県柴田郡柴田町西船迫三丁目103
電話 0224-55-5394 FAX 0224-55-1262

児童数 332名

地域と協働して開かれた学校づくりに努める

- 学習支援ボランティア
「しばたっ子応援団」の支援を受けて、「ミシンの使い方」を体験して学んだ。
- 安全ボランティア
地域の皆様は毎日、児童の登下校時の安全を見守っていただいている。
- 福祉体験活動
社会福祉協議会の方の支援を受け、体験を通して福祉について理解を深めた。



柴田町立西住小学校



〒989-1606 宮城県柴田郡柴田町船岡字大住町16番地の1
TEL:0224-53-3227 FAX:0224-52-0615

児童数 117名

①っこり笑顔

②っかり学ぶ

③んずん大きく

④んなで伸びる



地域のスクワールカードの啓発の下、安全な登下校の仕方を学ぶ交通安全教室など、地域の力を活用した安全教室。

地域資源や人材活用による課外活動や調べ学習、広域合同活動など、児童の学びを深め、個性を伸ばす機会を創出する。

子どもたちが主体的に学び、体づくりを推進することに加え、学力向上を図るため、山形大学との連携による授業の充実を図る。

地域の力を借り、学びを深め、学びを地域の方に体験していただきたい。学力向上を図るため、山形大学との連携を図る。



柴田町立東船岡小学校



〒989-1611 宮城県柴田郡柴田町大字生字下中川93-1
電話 0224-55-1811 FAX 0224-55-2515

児童数 232名

田植え・畑作り

東船岡秋祭り

新しい学校を創る集い



毎年、地域の指導者の先生で学校で、学校での授業を行っています。

児童が楽しみをもち、町内を歩き回り、地域、PTAと一体となった祭りです。

東船岡小学校は、県内第一号のコミュニティスクールとして活動を継続しています。



柴田町立船岡中学校

一教育目標：豊かな品性・強い心身・確かな学力をそなえた生徒の育成



〒989-1606 宮城県柴田郡柴田町大字船岡字七作26
TEL:0224-55-1162 FAX:0224-55-5444
全校生徒：431名

船中HP



地域体験学習

キャリアセミナー

文化祭ステージ発表

「花のまち柴田」の良さを伝えられる町民の育成を目指した取組です。学年間の連帯感向上にもつなげています。

柴田町で活躍する社会人の方々から「働くことの意義」について講話をいただき、職業観を高めたいための取組です。

地域の方々のご指導を通して、自分たちが住む地域に誇りをもつよう、郷土を愛する気持ちを育む取組です。学年の絆を越えて発表を行います。



柴田町立槻木中学校



〒989-1757 宮城県柴田郡柴田町槻木東2-3-1
TEL:0224-56-1331 FAX:0224-56-4267

生徒数 244名
P会員数 226名

地域に貢献し

さくらの塾生

地域の教育力



地域の方々や自分たちが住む地域に貢献できる活動を相談し、実施しました。

地域の方々との指導のもと、桜が満開になるように桜の木を決定しました。

1年生の学習で、自分たちの住む地域の歴史や産業などを地域の方から学びました。



手づくりほらさで地域清掃

地域理解と地域貢献を目的に、柴田町学校支援ボランティア「しばたっ子応援団」のご指導のもと「竹ぼうきづくりを通じた地域への奉仕活動（清掃）」を行う。



ランパージュプロジェクト

校内のラベンダーで作った装飾品やポプリを公共施設へ配布する。地域人材を活用した地域貢献活動。



キャリア教育セミナー

柴田町生涯学習課の協力を得て、元の職業人約20名を講師に迎え、将来をテーマに研修会を開催。

川崎町の地域学校協働活動

1 今年度の事業への取組について

本町では、地域全体で子供を育むために、家庭・学校・地域をつなぐ仕組みをつくり、協働による教育活動を通じて、家庭・地域の教育力の向上を図り、協働教育を一層充実させることを目的に「かわさきっ子応援団」を組織し活動しています。

今年度も家庭教育支援、地域活動支援、学校教育支援の3つの活動を軸に、豊かな自然環境を活かした地域の特色ある協働教育活動を展開していきます。

2 地域学校協働本部について

※地域学校協働本部は未設置

3 事業紹介

(1) 家庭教育支援

事業名	内容	備考
家庭教育サポートチームの設置	町内の子育てサポーターとの定期的な情報交換を行い、子育てサポート状況を把握・推進する。	幼児教育課・子育て支援センター職員と連携 各種講座・研修会へ参加
「おひさまカフェ」(子育てカフェ)の開催	子育て中のママと子供たちに、子育てサポーターが体験活動を通じた親と子のふれあいの場を提供する。子育てに関する不安を和らげ、親の育ちのきっかけづくりを行う。	公民館講座として開催 子育てサポーター6名 年2回開催
家庭教育学級 幼児教育学級	学校・PTAが主催する家庭教育・幼児教育講座の支援。	研修会、講演会等の講師に支払う講師謝金の補助
スポーツ少年団交流会	スポーツ少年団の団員交流会を通して、子供たちだけではなく、指導者・母集団同士の連帯意識を強める。	スポーツ少年団体：6団体
親子バレーボール大会	バレーボールを通して親と子の対話を深め、友情や連帯感等の社会性を身に付け、体力の向上を図る。	低学年・小学生の大会を実施 ボールは家庭バレーボールを使用



子育てサポーター活動



スポーツ少年団交流会



親子バレーボール大会

(2) 地域活動支援

事業名	内容	備考
教育講演会の開催	夢の実現に向けて、確かな学力と生きる力の育成を図る。 ・志教育講演会 ・学びの支援講演会	児童生徒及び保護者対象
地域資源を活用したプログラム	豊かな自然環境の中での体験活動を通じた郷土愛の育成を推進する。 ・小学生わくわくデイキャンプ ・6学年親子キャンプ ・カヌー&SUP体験	
世代間・異年齢交流	子供から大人まで年齢を問わない相互の交流・親睦を図る。 ・かわさき朗読会 ・川崎レイクサイドマラソン (運営ボランティア活動) ・中学生保育実習 ・幼高さつまいも苗植え交流	
ジュニア・リーダー事業	ジュニア・リーダーとしての資質の向上 (中学生・高校生対象) ・各種研修会への参加 ・管内交流研修会等への参加 ・地域活動への参画 ・自主企画行事の計画・運営等	川崎町ジュニア・リーダー サークル P・T・E 会員数：高校生 7名 中学生 10名 (令和7年1月現在)



J・L初級研修会



BG塾支援



J・Lハロウィンパーティー



マラソン大会ボランティア



J・Lクリスマス会



J・Lの地域活動

(3) 学校教育支援

事業名	内 容	備 考
本の読み聞かせ	児童への本の読み聞かせ ・ボランティアの活動 ・サークル「絵本ママ」活動	各小学校、こども園等 朝の学活の時間帯実施
校外学習活動	校外における学習活動への支援 ・役場見学（議会体験） ・町探検学習 ・清掃活動（ゴミ、空き缶回収） ・そば打ち交流会 ・社会見学等補助 ・スキー・そり教室支援 ・収穫祭（地域交流） ・史跡案内（山城見学・土器拾い）	地域ボランティアが活動支援 ・かわさきこども園 ・富岡幼稚園 ・川崎小学校 ・川崎第二小学校 ・富岡小学校 ・川崎中学校 ・富岡中学校
学習活動支援	学習活動への支援 ・戦争体験講話 ・部外活動講師派遣 ・昔あそび、しめ縄づくり ・農業体験学習支援 ・地域学習支援 ・防災教育支援	地域ボランティアが活動支援 こども園、幼稚園 小・中学校 放課後児童教室
セカンド・スクール事業	町内の施設が第2の学校、家庭の機能を果たしながら、子供たちが自然の中で様々な体験活動を行う長期集団宿泊事業 ・野外活動支援 ・レクリエーション指導 ・自然体験活動等	町内小学5年生を対象に実施 学校・家庭・大学・行政 が一体となり事業を実施
水辺の安全教室 (水の事故ゼロ運動)	水辺における水難事故を自ら防ぐ学習活動と海洋性スポーツの楽しさの普及 ・紙芝居による解りやすい説明 ・着衣泳、ペットボトル浮遊 ・カヌー試乗体験	B & G海洋センター職員が中心となった指導者会が講師として活動
伝承芸能指導	地域に伝わる伝統芸能の伝承を図るため、子供たちの興味・関心を促し、将来の担い手につなげる活動の推進 ・支倉豊年踊り練習 ・川内太鼓練習 ・支倉常長音頭 等	地域住民による伝承芸能の指導



施設見学（議会体験）



史跡案内支援（川崎要害地）



農業体験学習支援



小学生わくわくデイキャンプ



地域学習活動支援（土器拾い）



水辺の安全教室

4 成果と課題

- 学校地域連携担当者との連絡体制の整備（連絡会議の定期的な開催）。
- 学校現場との情報交換を行い、授業づくりに役立つ支援対応を確立する。
- ボランティア登録者の活躍の場を拡大する。
- ボランティアの活動の場を「学校」のほかに、地域へと広げていく。
- ボランティア活動が「地域貢献」、「生きがい」、「人と人のつながり」、「町づくり」へとつなげていくこと。
- 町独自の視点で、協働教育を推進するための体制整備を図る。

■ボランティア登録者（令和7年1月現在）

個人	264名
団体	97名（8団体）
合計	361名

川崎町 川崎町立川崎第二小学校(総合的な学習の時間) 「藍染め・綿繰り体験」

- 市町名 川崎町
- 学校名 川崎町立川崎第二小学校
- 期 日 令和6年9月10日(火)
- 内 容

総合的な学習の時間(第3・4学年)

「藍染め・綿繰り体験」

- ・藍の栽培や藍染め、綿繰りの実体験を通して、児童が地域に根付いた伝統技術の存在に気付き、興味を持ちながら理解を深めることができる。

○講 師

森の美術館 木ノ瀬 千晶 氏

○指導補助

森の美術館 佐藤 大史 氏、門脇 菜摘 氏



○児童の声

- ・今日、藍染めをして思ったことは4つあります。1つ目は藍の葉っぱです。布に藍の葉をとんとんすると、その布に藍の葉の形がつくんです。私はそれに驚きました。家で藍を育てたいと思いました。2つ目は綿のことです。綿の中から種が出てくるなんて思ってもいませんでした。綿の中から種を分ける道具もあるんだなと思いました。その綿をもっとやわらかくして行って、はた織り機で綿の糸にできるというのを初めて知りました。3つ目ははた織り機です。はた織り機で綿をやわらかくして糸になるんだなと思いました。4つ目はお礼の言葉です。私たちのために、この学校に来てくれてありがとうございます。今日はとても楽しかったです。

(3年 鈴木 萌々さん)



- ・今日は初めて大きな鎌を使って藍を切って収穫しました。藍はまた最初からなるのかなと思いました。その後に藍のたたき染めをして少し難しかったけど、後からトンカチでたたいているうちに慣れて楽しくなりました。水にぬらしても藍の色は変わりませんでした。けど、エコバックができたのでよかったです。その後に、へんな機械みたいので種を取り出すのがおもしろかったです。弓みたいな道具はどう使うのか気になりました。糸がどうできるのかも気になります。今日はありがとうございました。(3年 應本 脩斗さん)

- ・藍の葉っぱのまわりの雑草を取るときに道具を使いました。雑草が取りやすかったです。その後にたたき染めをしました。葉っぱを好きなように置いてテープで押さえて、たたきました。表も裏もやって水で洗いました。全然青くならなかったです。その後、綿をコットンと種を分けました。そのときに機械を使ってやりました。その綿をもっとふわふわにするために、他にもいろんな道具を使いました。弓みたいなものもありました。その後、綿を道具を使って糸にする作業をしました。でも、全然糸にはならなくて、脩斗さんに「手をはなしてみたら」と言われて手をはなしたらすぐとびました。その後に綿の種をもらいました。家で育てていっぱい綿を作りたいです。楽しかったです。またやりたいです。

(4年 大宮 新菜さん)



・今日は初めて藍のたたき染めをして楽しいから家でもやりたいなと思いました。青くなるのが楽しみです。今日初めて Cotton の存在に気付いて、初めて触ったらすごくふわふわしていました。ぐるぐる回す道具がいっぱい、いっぱい綿が出てきて、(わあ、すごい)と思いました。弓みたいなのを使ったら更にふわふわになって、こんな道具があったんだと思いました。糸をつくる道具で糸をつくるのが見たかったです。種をもらったので育てて糸をつくってみたいです。後、Cotton の黄色い所がなんなのかを知りたいです。

(4年 木村 眞生さん)

○講師から

子供たちは5月に種を撒いて、日々藍のお世話をしました。夏に雑草と間違われて刈られてしまった藍がたくましく再生する様子や、一度枯れかけた藍が元気に復活するまでの様子をみんなで体験してきました。そして、その藍の葉っぱの色を布にうつしてみたことで、身近な植物に対する新しい見方が一つ加わってくれていれば嬉しく思います。

昔は自分たちの衣服は自分たちで染めていたり織ったりして作っていたこと、その材料も畑で育てたものや野山にあるものでできていたことのお話を子供たちは熱心に聞いてくれました。

「自分たちが着ている服は、一体何からできているのか」

一番初めのところまで思いを馳せることが

今はほとんどなくなっていました。なぜ水道の蛇口をひねると水が出るのか？ということと同じように、ものごとの成り立ちから知ることは、生きていく上での大切な知恵となり、大きな力となるものです。

色を付けるために植物を育ててみて、子供たちはどんなことを感じたのでしょうか。実際にその色をどんなふうに見たのでしょうか。

今回の体験が何かしらでも子供たちの中に残るものであったなら、私のお役目は果たせたのかなと思います。そうであることを祈って。子供たちが持ち帰った綿の種、花の後に取れるであろう藍の種から、たくさんの芽が出ますように。

(木ノ瀬 千晶 氏)



○教職員の声

5月の藍の種まきから9月の収穫まで、手厚いご指導・ご支援をいただきました。技術面のご支援に加え、藍染めの基本的な栽培方法・歴史・伝統的な染色法などについても詳しく教えていただいたおかげで、児童たちは大変意欲的に活動に取り組むことができました。講師の先生方の「デジタル技術が発展した便利な時代だからこそ実体験を大切にしてほしい、本物に触れる体験から多くのことを学んでほしい」という熱い思いが活動を通してひしひしと伝わってきました。このことは、キャリア教育の面でも児童にとって非常に良い刺激になったことと思います。毎回の活動では、子供たちの新鮮な驚きや感動の表情が見られました。ありがとうございました。(担当 須藤 裕子先生)

○教育事務所から

自分で育てた藍だからこそ、より深く子供たちの心に残る貴重な体験になったと思います。

校訓 ～活力 敬愛 自主～

富川崎町立富岡中学校



〒695-1607 兵庫県豊岡市川崎町本立東中学校 岡崎 45-3
電話 (0224) 85-2007 FAX(0224) 82-8972
生徒数 341 名

千手さんの心 ～思いやり 感謝 奉仕 助け合い 自然菜～



豊年踊り

本校は平成15年度から、毎年10月5日(土)に、本校で「豊年踊り」を開催しています。これは、本校の創立50周年を記念して、本校の歴史を伝えるとともに、地域の文化を継承し、地域の活性化を図ることを目的としています。



すずらん活動

本校は、毎年10月5日(土)に、本校で「すずらん活動」を開催しています。これは、本校の創立50周年を記念して、本校の歴史を伝えるとともに、地域の文化を継承し、地域の活性化を図ることを目的としています。



農業体験

本校は、毎年10月5日(土)に、本校で「農業体験」を開催しています。これは、本校の創立50周年を記念して、本校の歴史を伝えるとともに、地域の文化を継承し、地域の活性化を図ることを目的としています。

丸森町の地域学校協働活動

1 今年度の事業への取組について

平成24年度から協働教育プラットフォーム事業委託を受け、教育基本方針に位置づけるとともに、これまで進めてきた学社連携・融合における事業等を協働の視点から再検討し、既存の組織や団体等と役割分担を図りながら事業を推進している。

子供たちの学習環境を整えるため、また地域住民が生涯にわたって学習を続けていくため、家庭・地域・学校が協働し教育環境を整え、「いつでも、どこでも、誰でも」学び続ける協働の社会を目指して事業の充実を図った。

2 地域学校協働本部について

平成元年から丸森町生涯学習推進協議会を設置しており、当町における生涯学習に関する必要な事項について協議し、町民の自主的・主体的な生涯学習活動の推進を図っていることから、本協議会が地域学校協働に関する評価及び検証を行う組織として位置付けている。

3 事業紹介

(1) 家庭教育支援

事業名	内容	備考
家庭教育セミナー	丸森町子ども会育成会、丸森町PTA連合会と共催。心豊かな健全育成を目指し、家庭教育の意義や重要性を認識し、家庭・学校・地域が連携して役割を果たすための共通理解を図ることを目的とした講演会を開催。 (※令和6年度は実施なし)	
家庭教育支援講演会等事業	家庭教育活動を推進するため、町内小中学校単位PTAで開催する家庭教育講演会を支援・推進し、保護者の学習活動の充実を図ることにより、家庭教育の向上を図る。 (※令和6年度は実施なし)	
読み聞かせ活動の推進	家庭での読み聞かせ活動を定着させ、読み聞かせの機会を増やし、子供が幼児期から本と親しみ、読書の楽しさを感じられるよう、保護者に対して子供への読み聞かせの重要性や、読み聞かせの方法などを学び、家庭における読み聞かせ活動を推進。 【丸森たんぼぼこども園 読み聞かせ講座】 ・テーマ：子どもの可能性を伸ばす絵本の読み聞かせ ・講師：絵本未来創造機構 EQ絵本講師 安部 隆子氏	こども園・保育所等と連携 社会福祉協議会と連携
子育て支援ボランティアの支援	社会福祉協議会と連携・協力し、情報提供等による支援。	



【 読み聞かせ講座 (保護者対象 / 園児・保護者対象) 】

(2) 地域活動支援

事業名	内容	備考
出前講座による地域学習活動支援	地域の学習要望に応じ、地域人材や各種団体、役場職員等を講師として派遣し、地域における学習活動を支援。 <ul style="list-style-type: none"> ・ニュースポーツ、レクリエーション ・丸森町に伝わる昔話 ・健康講話、防災講話 ・まゆ細工体験、そば打ち体験 ・ごみの分別講習 など 	
ジュニア・リーダーの養成	子ども会の年少指導者であるジュニア・リーダーを養成し、ボランティアや地域活動を推進するため指導及び支援。 <ul style="list-style-type: none"> ・初級研修会の開催 ・中級研修会、上級研修会参加 ・山の子キャンプ活動の指導、支援 ・定例会活動の指導、支援 ・ボランティア活動の推進 ・子ども会や地域行事への派遣 など 	丸森町子ども会育成会と連携
土曜学び塾の開催	学ぶ意欲づくりと家庭学習の習慣化を目指すとともに、地域の人との関わりなどをおして豊かな人間性を育成する。 対象者：小学校児童 実施期間：6月から3月まで（毎週土曜日）	
町営学習塾の設置	生徒自らが、目標に向かって主体的に学習へ取り組むことができる「自立学習」の習慣化を目的として、公営の学習塾を通年設置する。 対象者：中学校生徒	



【 出前講座 (ニュースポーツ / 防災講座) 】

【土曜学び塾 (ころ柿づくり)】



【ジュニア・リーダー活動（初級研修会 / 山の子キャンプ）】

【町営学習塾】

（3）学校教育支援

事業名	内容	備考
ふるさと学習支援	地域の学習支援者と連携して、小学校のふるさと学習を支援。 <ul style="list-style-type: none"> ・伝統芸能（青葉田植え踊り） ・生産体験（米、へそ大根、干し柿、蚕） ・文化継承（齋理幻夜、佐野地織、丸森和紙、新相馬節） 	
志教育支援	自分の夢の実現に向け、志を持つことの大切さを学ばせる機会にする。書家二階堂勇悦先生を招き講話後に書道パフォーマンス、生徒たちの大書会を実施した。	
防災教育支援	「3.11を忘れない」決して風化させてはならない取組として、やまもと語りべの会から講師を招き小学校2校で防災教育を実施した。	
出前講座による学校教育支援	学校からの要望に応じ、地域人材や各種団体、役場職員等を講師として派遣し、様々な学習活動を支援。 <ul style="list-style-type: none"> ・創作活動（まゆ細工） 	



【ふるさと学習（へそ大根作り / 地織体験 / 大蔵山オリエンテーリング）】



【志教育支援】



【防災教育支援】



【出前講座（まゆ細工）】

(4) 放課後子ども教室

事業名	内容	備考
のびやか教室	放課後の居場所づくりと家庭学習支援のために小学校2校で実施した。前半は、個別に学習に取り組み、後半はニュースポーツや昔の遊び、理科実験ショーなどの体験活動を実施した。	



【 のびやか教室（ 学習タイム / ニュースポーツ体験 / 理科実験ショー ） 】

4 成果と課題

○家庭教育支援

家庭は、子供たちの健やかな育ちの基盤であり、家庭教育はすべての教育の出発点であることから、子育てや家庭教育を支える地域環境の変化に合わせた対応が求められているが、少子化により対象者が減少していることや、特定のボランティアに頼った活動が多いため、支援体制の充実と新たな人材の発掘が課題となっている。

○地域活動支援

地域人材を積極的に活用した『出前講座』が地域活動の場に定着しており、受講者だけでなく講師として派遣された地域の方々も地域の住民の学習等に関われることに生きがいを感じていることから、相互作用による学習意欲の向上が図られている。今後も、活動に携わる地域住民や講師と意見を共有しながら、より良い事業のあり方を模索し進めていきたい。

ジュニア・リーダーを志す子供たちの減少傾向が続き、派遣事業やこれまで培ってきた技術の伝承が課題となっている。様々な体験活動を通し、人との繋がりを育む活動の場に子供たちが興味や関心を持てるように、学校・家庭・地域との連携を今まで以上に強め、活動の場を多く提供していきたい。

○学校教育支援

今年度も統合された2つの小学校のふるさと教育支援に取り組んだ。これにより意図的・計画的に体験活動を位置付けることができ、探究的な学習の過程を充実させることができた。専門家を講師として実施した書道パフォーマンスや防災講話等新しい支援事業を始めたが、児童生徒にとってとても有意義であったという評価を実施した学校からいただいた。次年度以降も継続実施できるよう調整していきたい。

○放課後子ども教室

今年度、新しく「のびやか教室」として2つの小学校で実施することができた。それぞれ4回の開催であったので、次年度は回数を増やすとともに内容も充実していきたい。

丸森町 丸森町立丸森中学校(総合的な学習の時間) 「職場体験学習」

- 市町名 丸森町
- 学校名 丸森町立丸森中学校 2学年
- 期日 令和6年9月12日(木)
- 内容

総合的な学習の時間

- ・地域の方々と積極的な交流を図り、社会のマナーや礼儀・コミュニケーション力を身に付けさせると共に、自分の住む丸森への興味・関心を高めさせる。
- ・「働くこと」を通して、自己の生き方について考えを深めさせる。
- ・職場体験学習を通し、課題設定・課題追究・表現の能力を高める。

○協力いただいた施設訪問先

- ・丸森町国民健康保険 丸森病院
- ・丸森ロイヤルケアセンター
- ・阿武隈ライン舟下り事業所
- ・丸森物産いちば 八雄館
- ・セブンイレブン 館矢間店
- ・フレスコキクチ丸森店
- ・アクセルヘアーライブ
- ・丸森町立丸森小学校
- ・丸森町立館矢間小学校
- ・角田警察署 丸森交番
- ・栄泉堂丸森店
- ・まんま亭
- ・霜山畳工業所(有)
- ・阿武隈急行線 丸森駅
- ・たんぽぽこども園
- ・佐藤油店
- ・丸森郵便局
- ・荒浜屋
- ・(有)岡崎工務店
- ・齋藤理容所
- ・齋理屋敷
- ・ひまわりこども園
- ・谷津歯科医院
- ・丸森町役場総務課

○生徒の声

- ・職場体験学習に行ってお客様によって適切な接客をするということです。小さい子には固い口調ではなく優しく軽い口調で接客し、ご高齢の方には耳があまり良くない人

なく、お客様に合わせて接客が大切だということが学ぶことができ良かったです。

(セブンイレブン
館矢間店)



- ・知らないことばかりで、苦労してきた人がたくさんいることを知りました。患者に優しく寄り添い、チームワークで1人の患者を退院させることの難しさも知りました。患者さんの食べ物を柔らかくして食べさせたり、常に呼び掛けて反応を見ることの重要さも分かりました。2日間疲れましたが、知らないことをたくさん知ることができて良かったです。

(丸森病院)

- ・大工さんの仕事を体験して、大工さんの仕事は大変な仕事であり、大工さんの技はすごいということが、この2日間で分かりました。早く丁寧に作業をする、大工さんにとっては当たり前になっているかもしれませんが、僕にはとてもすごいことです。作業をするということ自体大変なのに更に気をつけることがあるのは大変だと感じました。僕もテキパキと仕事をして、質の良い結果を出せるようにしたいです。

(岡崎工務店)



- ・私は、将来は医療系の仕事をしたいと思っていました。仕事の内容が詳しく分からなかったので、将来の夢に対して不安がとても大きかったのですが、今回の職場体験学習を通して、人を治す仕事はとても大変だけど、重要でやりがいのある仕事だと感じました。ますます、医療系の仕事をしたいという気持ちが強まり、今からしっかりと勉強して夢を叶え、人を助けたいと思うようになりました。

(谷津歯科医院)



- ・すごく美味しそうなお菓子を作るのを近くで見ることができ、とても嬉しかったし楽しかったです。仕事面でも、一緒に行った友達と2人で仕事をするよりも、従業員の方の仕事の速さがとても素早くて驚きました。さすがプロだなと感心しました。仕事をする大変さと、仲間とコミュニケーションをとる大切さを学ぶことができて良かったです。

(栄泉堂丸森店)



○体験先の方からの感想

- ・地元の丸森の子は将来丸森に戻って頑張ってもらいたいです。(阿武隈ライン舟下り事業所)
- ・こんなに立派な履歴書は初めて見ました。この職場で体験したいという思いが伝わる履歴書で、取組も非常に良かったです。(谷津歯科)
- ・自分のやっている仕事を理解してもらうため、また、将来頑張ってもらいたいという思いがあって市場に連れて行き、様々な体験をさせました。昔の職場体験の報告書や新聞も大事に取っています。(荒浜屋)
- ・全員が挨拶も元気で取組も非常に立派でした。園児たちも喜んでいました。(こども園)
- ・挨拶の声が大きく、一生懸命仕事に取り組んでいてとても良かったです。(佐藤油店)

○教職員の声

丸森中学校の総合的な学習の時間では、1年生の時に丸森町の知ることから始まり、2年生では、2日間の職場体験学習を行い、自分の住む丸森への興味・関心を高めるためにも丸森町で働く人々の生きがいを知り、さらに体験を通して町の課題を自分のこととして考えるよい機会となりました。生徒たちは、「楽しかった」、「充実していた」という声と、「大変だった」、「疲れた」という声があがっていました。

働くということに関して、やりがい(充実した部分)と苦労(大変さ)の両方を実感できたことは、今後生徒が社会に出て生きていく上で非常に貴重な体験だったと思います。職場体験学習を受け入れ、地元の子どもたちである生徒たちにとっても優しく対応していただいた丸森町内の各事業所の方々には、深く感謝申し上げます。(2学年主任 須藤 正文 先生)

○教育事務所から

地域の方々からの深い愛情に支えられて得られた多くの学びや体験を、今後の学校生活や将来に生かしてほしいと願っております。



丸森町立丸森小学校



〒981-2156 伊具郡丸森町字森川内39番地1
TEL 0224-72-2140 FAX 0224-72-2164

児童数 246名

ふるさと学習として、丸森・磐前・大内・小宮・金山地区の伝統や文化を学び、地域の方々と触れ合いながら学んでいます



へそ大根作り

毎年地域のへそ大根作りを4年生が体験しました。



卒業証書紙すき

6年生が自分の卒業証書を丹精込めてすき、作成しました。



佐野地蔵

大内の佐野地蔵会館で3年生が稲作体験をしました。



稲作体験

地域のみなさんと指導を受け、5年生が稲作を体験しました。



丸森町立館矢間小学校

〒981-2102
宮城県伊具郡丸森町館矢間館山字玉川29-1
TEL 0224-72-2148 FAX 0224-72-2169
URL <https://www.town.marumori.miyagi.jp/school/tate-sho/>
児童数 187人



防災教育・ふるさと教育(大張地区、館矢間地区、耕野地区)



丸森未来防災フェスタ2023

大張地区で蚤の学習



館矢間地区で栽培活動



耕野地区の干し柿づくり



丸森町立丸森中学校

〒981-2167 宮城県伊具郡丸森町田町置24番地2
TEL 0224-72-2145 FAX 0224-72-1516
生徒数 248名



丸森学(ふるさと教育)



地域の歴史や風土を知り、地域の方々とその解決に思い込み、地域に貢献する態度を養います。

ボランティア活動



地域の中で自主的な活動を通して、ともに助け合う態度を養います。

特別講座



関係機関の方々から専門的な知識をいただき、より良い生活を求める態度を養います。

仙南広域の地域学校協働活動

1 今年度の事業への取組について

視聴覚教材センター（あずなびあ）では、視聴覚教材・機材の貸出、卒業式や合唱コンクールなどのYouTube 配信支援、自作教材の作成支援（映像編集等）を行っている。

仙南芸術文化センター（えずこホール）では世代を超えて、広く芸術文化に触れる機会を提供できるよう積極的に事業を展開した。また、今年度も「あそてん！2024」を開催し、昨年度を上回る来場者で賑わいを見せた。

2 事業紹介

（1）家庭教育支援

事業名	内容	備考
あそてん！2024 ～あそびの天才～	大人も子供も楽しめるブースを出店。今年も「かえっこバザール」を開催し、多くの親子連れで賑わった。他にも楽器体験やプロアーティストとのダンスなど様々な企画を行った。 会場：仙南芸術文化センター、大河原町総合体育館	対象：圏域住民 来場者：1,629名
えずっこひろば	仙南芸術文化センター（えずこホール）の住民創造グループの1つである託児ボランティア（えずこキッズクラブ）が月1回開催。	対象：子育て中の親子



【あそてん！2024】



【えずっこひろば】



（2）地域活動支援

事業名	内容	備考
視聴覚教材・機材の整備及び貸出事業	圏域内の学校教育・社会教育関係団体向けに、無料で貸出を行っている。	対象：圏域内学校・社会教育関係団体
各種講座及び学習機会提供（おでかけ！あずなびあ！）事業	学校教育及び社会教育において教育メディアを効果的に活用するため、各種講座を実施。	対象：圏域住民
うるおいの圏民参加体験事業（ワークショップ事業）	えずこホールで、ゴスペルやダンス、演劇、照明・音響等、幅広いジャンルを入門編として分かりやすく、楽しい講座を展開している。	対象：圏域住民



【各種講座及び学習機会提供事業】



【ワークショップ事業】



(3) 学校教育支援

事業名	内容	備考
職場体験	えぞこホールにおいて、職場体験を実施。	対象：圏域内中学生・高校生
うるおいの圏民参加体験事業 (アウトリーチ事業)	トップクラスのアーティストによるアウトリーチ事業。小学校等で学校の授業の一環として事業を展開。	対象：小・中学生



【職場体験】

【アウトリーチ事業】

(4) その他

事業名	内容	備考
人材育成事業 (AZ9 ジュニア・アクターズ養成事業)	次代を担う子供たちと地域の文化を「はぐくむ」ことをテーマとし、高度な総合芸術である演劇をとおして、将来の文化活動を担う人材の育成を図る。	対象：圏域内小学3～6年生
地域学習教材制作の促進と保存事業	地域学習に効果的な自作視聴覚教材制作の支援、利用促進を図る。	対象：圏域内住民

3 成果と課題

(1) 成果

- ・ 「あそてん！」は昨年を上回る来場者で賑わい、今年も「かえっこバザール」を実施した。様々なブースを展開し、活気に溢れていた。
- ・ 各種講座及び学習機会提供事業について、主催講座は撮影講座、無料ソフトを使用したパソコン動画編集講座を実施。また、教育施設より依頼を受け、プログラミング体験や、ヴァイオリンやチェロの演奏体験など、子供たちに様々な学習機会を提供することができた。

(2) 課題

- ・ 「あそてん！」について、対応するスタッフの人数不足が見られたところがあるのでスタッフの配置について見直す必要がある。
- ・ YouTube 配信支援について学校からの需要が高まっているが、機材のセッティングから配信までの設定に対応できる先生は少ないので、徐々に広めていきたい。